

《第15号》「冬の夜の暖かい思い出」

辰巳 菊子(社/日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 理事)

この季節になると毛糸再生機のことを思い出します。やかんの蓋にしあげ、湯気を使って、解いて丸した毛糸を真っすぐに戻すアイデア品です。母が夜の片づけを終えた後、火鉢でしゅーしゅーと湯気の立つ毛糸再生機を使って、くねくねの毛糸を魔法のようにきれいにしていました。

小さかった私と妹は火鉢を取り囲み、私たちにも引っ張らせてなどと騒ぎながら、その威力に目を見張ったものでした。それからせっせと母はその毛糸でアフガン編みをはじめ、あっという間にフード付きカーディガンなどを編んで着せてくれました。母の毛糸を編む指や手の動きも、目に焼き付いています。

一つ出来上がるとまた、別の糸で同じことが始まります。洗った古いセーターを解くときのあの快さや、あっという間にまっすぐになる毛糸。本当に楽しい冬の夜の、小さい私たちにとっての楽しい遊びでした。いつも、私がやりたい、私がやりたい、と妹と場所の取り合いをしていましたが、母はそれを上手に仲裁しながら、休まず手に毛糸を巻き取っていました。

火鉢だけが部屋の暖房のはずなのに、温かい記憶しかない子供時代。リユースやリサイクルなんて言葉はなかったけれど、目の前でリユース、リサイクルそのものを見て育つことのできた、豊かな冬の夜の思い出です。

以上